

現場の

The Way of the Master Carpenter

流儀

大工の
正やん

CROSSMEDIA PUBLISHING

はじめに

世の中は、ほんまに便利になった。

AIもあるし、機械もどんどん進化している。
ボタンひとつで答えがはじき出される時代や。
図面を引けば、家もきれいに3Dで立ち上がる。

それを見ると、

そのまま自動で家が建ちそうな気にもなる。

けれど、家はデータでは建たん。

最後は、手を動かす人間がおって、初めて形になる。

一方で、修行の期間は短くなった。

昔みたいに、何年もかけて親方の背中を追いかける、そんな時間は少なくなっている。

それ自体が悪いとは言わん。

時代は変わる。

しかし、その中で、

確実に失われていくものがある。

マニュアルには書かれていない、やり方。

理屈では説明しきれん、段取り。

古くから受け継がれてきた、仕事の文化。

この本では、そんな「現場の流儀」を書き残していく。

自分は、福井県・敦賀の普通の家大工。

特別な技があるわけでもない。

ただ、54年間、地道に現場に立ち続けてきただけや。

だけど、息子に言われるまま始めたYouTubeが、

思いのほか多くの人に見られるようになった。

半分は冗談かもしれないけど、

海外からも、弟子入りしたいという連絡が来る。

自分にとっては当たり前前の方が、
今では珍しいと言われる。

効率化が進む時代やからこそ、
手で考え、手で決める仕事に
価値を感じる人がいるのかもしれない。

もし今、自分の仕事に行き詰まっている人がいたら、
読んでみてほしい。

ヒントは、派手なところやなく、

現場の中の知恵にある。

長いあいだ積み重ねてきた

目立たん工夫の中に、

仕事を支える力があるはずや。

これは建築の現場に限った話やない。

どんな職種でも、実際に手を動かす人がおらんと
何もできていかん。

この本は、そんなすべての仕事に通じる職人目線の話や。

目次

はじめに 2

第 1 章

仕事の基本

15

「時間の見た目」を整える 16

自分なりの「定規」を守る 20

仕事は「格好」から入る 24

仕事で一番簡単なのは「挨拶」 28

「パッと成功する」のは別の世界 33

第
2
章

修行

37

教えてもらえるように持つていくのも「見習いの技」

38

毎日30分、見えない時間に積み重ねる

43

意志がないなら今辞めた方がええ

48

「気張るのは今や」と肝に銘じて勉強する

53

道具は、使って、使って、使って、使いこなす

59

いい親方を見つけるのも「努力」のうち

65

挑戦した経験は財産になる

71

貧乏も財産 77

第 3 章
—— 独立 ——
83

お天道さんより先に、周りの人が見てる 84

一度でも相手を不安にさせたらアウト 89

3通りの段取りを考える 98

動ける身体を維持せなアカン 103

信用の積み重ねが大事 107

道具に負けたらあかん 110

ひとりは気楽 113

恩はお金ではなく身体で返す 116

自分でも、一生に一度の買い物をする 121

第4章

— 生き方

127

「なろう」と決めたならやり切る 128

人間的な成長は人が見ている

133

「自分の名が残る」という感覚を持っているか

137

衰えは知らんうちにやってくる

140

身体を休ませながら頭を整理する

145

間違いは寝ている時に思い出す

149

第5章

時代の変化

155

大工は刻んでなんぼ

156

「大工さん」という呼び方の意味 164

仕事は「命がけ」だった時代 169

「差がつく」場面が減った現代の家 174

50年後も仕事は残る 179

最後の仕事は「残すこと」 183

第6章

大工の知恵

189

家を長持ちさせる知恵は大工が知っている 190

良い仕事は、派手に目立つことではない 196

腕のいい大工さんは家を見ればわかる 200

日本の木を日本の家で使う 204

家づくりは「建てさせてもらった感謝」そのものだった 208

解説 船井啓太（大工の正やんの三男） 214

あとがき 232